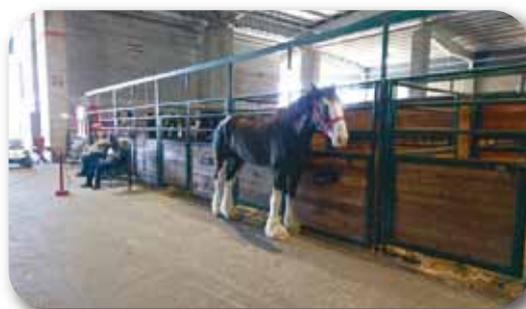


令和元年度 伊予市中学生海外派遣事業 セーラム派遣団報告書



令和元年8月17日(土)～8月27日(火)
伊予市・セーラム国際交流委員会

目 次

1 派遣団の構成と研修の概要	
① 派遣者名簿	2
② セーラムの概要	3
③ 日程表（研修プログラム）	4
2 研修報告	
① 団長報告	6
② 研修日誌（旅の記録）	7
③ 派遣生報告	18
3 事業実施に関する諸会合	32



《英語研修風景》

1 派遣団の構成と研修の概要

- ① 派遣者名簿
- ② セーラムの概要
- ③ 日程表（研修プログラム）



《オレゴン州議会議場視察》

① 派遣者名簿

【派遣生】

番号	学校・所属名	氏名	性別	学年	備考
1	港南中学校	うえの ゆめ 上野 由芽	女	2年	
2		きよた りり 清田 李々	女	2年	
3		たかき ゆめ 高木 優芽	女	2年	
4		しみず まなみ 清水 愛心	女	2年	
5	伊予中学校	ひょうどう かなな 兵頭 奏南	女	3年	
6		なごう まりん 名合 真梨	女	3年	
7		おがさわら そうた 小笠原 壮汰	男	3年	
8		たにおか さえ 谷岡 沙恵	女	3年	
9		うえだ はるか 上田 悠華	女	3年	
10		いけうち たいよう 池内 太陽	男	2年	
11		ひの こうせい 日野 晃靖	男	2年	
12	中山中学校	ささだ はるき 笹田 明希	男	3年	
13		くぼなか みずき 窪中 瑞希	女	3年	
14	双海中学校	ふくい りん 福井 凛	女	2年	

【団長・引率指導者】

15	伊予市・セーラム 国際交流委員会顧問	おかべ えつお 岡部 悦雄	男	団長	
16	中山中学校	せがわ ひろうみ 瀬川 広海	男	教諭	
17	伊予中学校	まつなが まゆ 松永 麻由	女	教諭	

【添乗員】

伊予ツーリスト(株)	たけち かずお 武智 和夫	男		
------------	------------------	---	--	--

② セーラムの概要

場所・人口等

セーラム（英：Salem）は、アメリカ合衆国オレゴン州の州都であるとともに同州マリオン郡の郡庁所在地です。

ウィラメット渓谷の中心に位置し、市の中心をウィラメット川が流れています。ウィラメット川はマリオン郡とポーク郡の郡境界線を形成しており、セーラム市のウェストセーラム地区がポーク郡に属しています。

セーラムは 1842 年に設立し、1851 年にオレゴン準州の準州都となった後、1857 年に市として法人化されました。



セーラム市の位置

国勢調査が実施された 2010 年時点での市の人口は 154,637 人、2016 年 7 月 1 日時点の公式の推定人口は 167,419 人であり、ポートランドに続く州内第 2 位の人口規模を構える市です。

行政

セーラムは市長 - 議会制の議会形態を採用しています。市議会は小選挙区から選出される 8 人の市議会委員から構成され、市長は直接選挙により選出されます。



セーラム市 議場

観光

セーラムのダウンタウンには、観光名所が多く存在します。オレゴン州会議事堂やそれに隣接するウィルソン公園のほか、ミッション・ミル博物館、ハリー・フォード美術館、エルノシア劇場、リバーフロント公園、ウィラメット川、さらにオレゴン州有数の歴史的建造物が数多くあります。



ミッション・ミル博物館

教育

セーラムの小学校と中等学校はセーラム＝カイザー公立学区の一部を構成しています。セーラム＝カイザー公立学区では 41,000 人の児童・生徒が学んでおり、州内第 2 位の人口規模を持つ公立学区となっています。市内には他にも、ブランケット・カトリック・スクールやセーラム・アカデミー・クリスチャンなど私立の小学校や中等学校が数多く存在しています。



ウィラメット大学法科大学院

また、セーラムには、チェメケタ・コミュニティ・カレッジ、コーバン・カレッジ、東京国際大学アメリカ校、ウィラメット大学など多くの大学があり、中でもウィラメット大学はアメリカ合衆国西部最古の大学として知られています。

③ 日程表（研修プログラム）

日次	月日(曜日)	発着地／滞在地名	発着現地時間	交通機関	摘 要
1	8/17 (土)	集合(伊予市役所) 出 発 式 伊 予 市 役 所 発 関 西 空 港 着 発 シ ア ト ル 着 発 ポ ー ト ラ ン ド 着 セ ー ラ ム 着 (ホ ー ム ス テ イ)	07:00 07:30 出発式終了後 13:30 16:00 10:03 13:25 14:42 16:30	貸切バス DL182 DL5780 専用バス	市役所にて出発式の後 貸切バスにて関西空港へ 途中弁当の昼食 出国手続後、デルタ航空にて一路 シアトルで乗換え、ポートランド へ(日付変更線経由) シアトルにて入国手続 到着後専用バスにてセーラムへ GRAND HOTEL IN SALEMにて 現地ホストファミリーと合流し、 歓迎式の後、各ホームステイ先へ
2	8/18 (日)	セ ー ラ ム 滞 在 (ホ ー ム ス テ イ)	終日		終日ホストファミリーと過ごす。
3	8/19 (月)	セ ー ラ ム 滞 在 (ホ ー ム ス テ イ)	午前 午後		午前:セーラム市内の見学、 セーラム市及び市長表敬訪問 午後:英語研修(カルセル)
4	8/20 (火)	セ ー ラ ム 滞 在 (ホ ー ム ス テ イ)	午前 午後		午前:英語研修(TIUA) 午後:体験学習(州議会訪問) 夕刻:コンベンションホールにて 伊予市訪問団主催のレセプション に出席
5	8/21 (水)	セ ー ラ ム 滞 在 (ホ ー ム ス テ イ)	午前 午後		午前:英語研修(ミッションミル) 午後:体験学習(ウイラメット大学)
6	8/22 (木)	セ ー ラ ム 滞 在 (ホ ー ム ス テ イ)	午前 午後		午前:英語研修(Art dep't) 午後:体験学習(サイクリング)
7	8/23 (金)	セ ー ラ ム 滞 在 (ホ ー ム ス テ イ)	午前 午後 夕刻		午前:英語研修(CTEC Center) 午後:体験学習(クックセンター)
8	8/24 (土)	セ ー ラ ム 滞 在 (ホ ー ム ス テ イ)	終日		セーラム滞在最終日 ホストファミリーと最後の日を過 ごす。
9	8/25 (日)	セ ー ラ ム 発 ポ ー ト ラ ン ド 着	09:00 17:00	専用バス	AM9:00にグランドホテルイン セーラム集合 ホストファミリーと別れてポート ランドへ レストランにて昼食 クラウンポイントビスタハウス、 マルトノマの滝、ボナビルロック &ダム、ローズガーデンなど レストランにて夕食 ポートランド市内ホテル泊
10	8/26 (月)	ホ テ ル 発 ポ ー ト ラ ン ド 発	08:00 11:45	専用バス DL069	ホテルにて朝食後ポートランド空 港へ 出国手続後、一路帰国の途へデ ルタ航空利用
11	8/27 (火)	成 田 空 港 着 発 羽 田 空 港 着 発 松 山 空 港 着	14:25 15:15 17:35 19:40 21:05	貸切バス JL443	成田空港にて入国後、専用バスに て羽田空港へ 羽田空港より日本航空にて松山 空港へ 松山空港にて解団式の後、解散

2 研 修 報 告

- ① 団長報告
- ② 研修日誌（旅の記録）
- ③ 派遣生報告



《クロックセンターでの体験学習》

① 団長報告

多くの皆さまの御支援を得て、令和元年度の「伊予市中学生海外派遣事業」が予定したスケジュールを達成しましたことを御報告します。

セーラム市は人口 17 万人のオレゴン州の州都です。緑あふれる街並みの中に、州議会議事堂や大学や病院等の公共施設が整い、高貴な風格のある閑静な美しい町です。気温は 27 度と少し高いものの湿度が低く、朝夕は涼しさを感じ大変過ごしやすい日々でした。

今年で 10 回目となりました伊予市中学生海外派遣事業は、事前に国際交流の意義や親善大使の心得、海外渡航における生活習慣の違いなど、説明会、研修会と入念に準備を重ね、結団式を経て 14 名の派遣生とともに派遣団としての使命感を胸に、8 月 17 日から 27 日の日程で 11 日間の研修を行いました。

伊予市から貸切バスにて関西空港へ向かい、関西空港→シアトル→ポートランド→セーラム市へと 23 時間の長旅でした。ポートランド空港では、チャック・伊藤御夫妻の出迎えを受け、セーラム市グランドホテル到着時は、セーラム・伊予国際交流委員長のエドワード・E・デイビスさんをはじめ、7 家族のホストファミリーの方々の歓迎を受け、エドワード・E・デイビスさんの心温まるウェルカムスピーチを頂いて、いよいよアメリカでの体験生活がスタートしました。

研修は、毎日ホストファミリーに送迎していただき、午前はスーザン先生と高校生ボランティアと日々場所を変えての濃厚な英語研修、午後は体験学習としてウィラメット大学やオレゴン州議事堂視察、そしてサイクリングやアクティビティー等々、多彩で充実したカリキュラムを念入りに準備してくださり、御支援くださった現地セーラム交流委員会やロータリークラブの方々、ホストファミリーの皆様の迅速な連携と、この上ない御尽力に積み重ねた友好の深さを知り感動の連続に感銘を受けました。

セーラム市長訪問時には、チャック・ベネット市長はじめ市の皆様が私たち派遣団を温かく迎えてくださり、武智市長からの親書をお渡しし、派遣生 14 名は緊張しながらも全員が英語でしっかりと自己紹介と抱負を述べている姿に、早くも参加者全員に感動と笑顔をもたらしてくれました。

さらに、コンベンションセンターにて開催した訪問団主催のレセプションでは、チャック・ベネット市長をはじめ、ホストファミリーや多くの関係者の方々をお招きし、派遣生のアイデアを凝らした英語のパフォーマンスは大きな喜びと感激をもたらし、親交を深めるための充実した時間を過ごすことができました。

今回は 11 日間の研修でしたが、当初はおとなしく不安そうにしていた派遣生もホストファミリーの方々と積極的にコミュニケーションを図ることができ、両市の交流の懸け橋としての役割を發揮することで充実感を味わいました。そして最終日には、達成感と自信に満ち溢れた派遣生として大きく成長しておりました。

これも現地セーラム交流委員会の方々やロータリークラブの方々、ホストファミリーの皆様の多大なる連携と綿密なる計画のお陰があってこそと、心より深く感謝いたしております。

派遣生にとりまして一生涯の糧となる貴重な経験になったことでしょう。この研修で学んだことを今後の人生に役立て、国際人として大きく羽ばたいてくれることと確信しております。

最後になりますが、伊予市中学生海外派遣事業に当たりまして、引率してくださった瀬川先生、松永先生、この事業に携わっていただいております武内会長様、そして本事業の企画運営に当たってこられた伊予市とセーラム市の関係者の皆様の御努力に、心より敬意を表し深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

伊予市中学生海外派遣事業セーラム派遣団 団長 岡部 悦雄

② 研修日誌(旅の記録)

第1日目(8月17日 土曜日)

〈伊予市役所→関西空港→シアトル空港→ポートランド空港→セーラム市〉

海外派遣の旅は伊予市役所への集合から始まりました。早朝の午前6時40分、大きなスーツケースにはたくさんの荷物を詰め込み、期待と不安の入り混じる表情で、派遣生たちと家族が続々と集まってきました。

午前7時30分、出発式が始まりました。伊予市教育委員会教育長の渡邊博隆様をはじめ、保護者の皆様、各学校の先生方等、たくさんの方々が出発式に参加してくださいました。まず初めに、伊予市・セーラム国際交流委員会会長である武内英治様、続いて、派遣団団長の岡部悦雄様からごあいさつをいただきました。次に、伊予中学校の谷岡沙恵さんが、これまでに関わってくださった市役所の皆様と保護者の方々へ感謝と、一回り大きくなって帰ってきたいとの誓いの言葉を力強く述べてくれました。



バスに乗り込み、関西空港へと向かいます。見送りに来てくださったたくさんの方々としばしのお別れです。大きく手を振り、笑顔で出発しました。道中は予想していた交通渋滞もありましたが、バスの中で派遣生同士が交流を深め、和やかに5時間半を過ごしました。関西空港内に入ると、とても広く、また、たくさんの外国人の方々があり、出国に向けて胸が高鳴りました。デルタ航空にチェックインをし、保安検査場へと進みました。金属探知機ゲートが鳴ったりしましたが、それもいい経験。自動化ゲートで出国審査を受け、搭乗ゲートへと進みました。

午後3時50分、いよいよ飛行機が飛び立ちました。まず、シアトル空港へ向かいます。出発して一時間後には、早くも機内食が配られました。ほとんどの生徒が初体験です。メニューはポーク、チキン or ベジタリアンを選び、キャビンアテンダントに伝えます。キャビンアテンダントの方々はとても優しくフレンドリーで、この旅で英語を使う初めての場面でしたが、とてもスムーズに行うことができました。飛行機が揺れることもほとんどなく、各々が映画を見たり、読書をしたり、寝たりと、約10時間のフライトを工夫して過ごしました。

飛行機が日本を出発したのが、17日の午後3時50分。シアトル空港に到着したのが17日の午前10時。日付変更線を超える関係で、なんだか1日得した気分でした。シアトル空港ではまず、入国審査です。旅の目的は？ 滞在先は？ 何日間？ など、いろいろな質問を入国管理官から聞かれるので、それに一生懸命答えました。添乗員の武智さんの手配のおかげで、非常にスムーズに入国することができました。



シアトル空港では、乗り継ぎのために約3時間の自由時間がありました。空港内はもちろん



ん英語が飛び交い、いよいよアメリカの地に来たんだという実感が湧いてきました。自由時間には各々が初めてドルを使って買い物をしました。初めはやはり、マクドナルドやスターバックスなど、馴染みのあるところで買い物にチャレンジです。緊張しましたが、楽しい経験でした。あっという間にポートランド行きの飛行機の時間が来ました。長い移動もいよいよこれが

最後です。目的地のオレゴン州セーラムにどんどん近づいていきます。ポートランド空港に着くと、現地の日本語ガイドをされている田尻さんが待っていてくださいました。セーラムに向かうバスの中では、オレゴン州のこと、ポートランドのこと、セーラムのことを説明してくださいました。そして、ホームステイをするにあたって大切なマナーについても教えてくださいました。

そしてついに、この時がやってきました。17日の午後4時にグランドホテル到着、しばらく待っているとホストファミリーの皆さんがお迎えに来てくださいました。待ちに待ったホストファミリーとの対面は、とても素晴らしいものとなりました。派遣生たちを温かく迎え入れてくださり、笑顔でそれぞれの家庭へと向かいました。

第2日目（8月18日 日曜日）

〈ホストファミリーと過ごす初めての休日〉

この日は、ホストファミリーと終日過ごしました。滝を見に行ったり、自家用ボートで釣りに連れて行っていただいたり、バーベキューを楽しんだり、ホストファミリーの方々が研修生たちのために、いろいろ計画を立ててくださっていました。おかげで、本当に楽しく充実した一日を過ごすことができました。昨日出会ったばかりのホストファミリーでしたが、あっという間に打ち解けて、一日がとても短く感じられたそうです。

第3日目（8月19日 月曜日）

〈午前：消防署⇒警察署⇒市役所⇒カルーセル〉

〈午後：英語研修 カルーセル・セーラムリバーフロント公園⇒フリータイムダウンタウン散策〉

いよいよ今日から、本格的に活動が始まります。午前8時30分、ホストファミリーに送っていただき、集合しました。ファミリーからも励ましの言葉をもらいました。

まずは消防署訪問です。当日未明に火災が発生したため、ほとんどの消防士の方が出動中でした。施設を見学した後、全員消防車に乗せてもらいました。その後、放水訓練も経験させてもらいました。全員力強い姿勢で放水ができました。



次に警察署を訪問しました。2人の警察官が来てくださり、まずは白バイに乗せてくれました。BMW製の日本では珍しいバイクで、生徒も大人も大喜びで記念撮影をしました。警察用のドローンを紹介してくださいました。事故現場などで飛ばして、搭載されたカメラで撮影し、現場検証に役立てるそうです。セーラムの警察官全員が操作する免許を持っているようで、実際にドローンを飛ばし、上空から集合写真を撮影してもらいました。最後に装甲車のパトカーを見せてもらいました。厚い装甲を間近で見て、改めて銃社会の怖さを実感しました。



午前の最後はセーラム市役所訪問です。お忙しい中ではありましたが、チャック・ベネット市長さんにお会いすることができました。チャック・伊藤さんに通訳してもらいながら、まずは岡部団長が挨拶し、次にベネット市長が挨拶されました。その後、ベネット市長から、自己紹介とセーラムに来て一番印象に残ったことを発表するよう促されました。自己紹介とともに、「人が優しいこと」や「景色がきれいなこと」など、セーラムの印象をみんな一生懸命英語で答えました。生徒・引率者どちらにもプレゼントを用意して下さっていて、一人一人に渡していただきました。ありがとうございました。その後、市議会場に場所を移し、議会について市のコーディネーターのグレチェンさんが説明し、タナベトオルさんが通訳してくれました。市議会では8地区から各1人ずつの計8人を選挙で選び、予算だけでなく、住みやすい市にしていくための取組について話し合い、決定していきます。セーラムでは、市長も議員も無給で働いていることに対し、全員驚きを隠せませんでした。

市役所を後にし、カルーセルに向かいました。エドさんの計らいで、ランチ前に全員でメリーゴーランドを楽しむことができました。

カルーセルでランチを終え、午後からいよいよ英語研修です。初日の研修場所はリバーフロント公園内カルーセルの研修室です。講師はタナベトオルさんの奥さんのスーザン先生です。日本語の教師をされていて、6人の学生をボランティアとして連れて来てくれました。最初に、2, 3人のグループに分かれて席に着きました。ボランティアの学生が各班についてくれます。まずは自己紹介をしました。「一番の思い出」や「昨日ホストファミリーと何をして過ごしたか」など、指定されたお題も一生懸命考えて、自己紹介することができました。その後、「カルーセルの中で自分が一番好きな動物の写真を撮りなさい」や「公園にある最も新しい橋の名前とニックネームは何と言うか」などの課題を解決するために、公園内やカルーセルなど、屋外での研修に取り組みました。



その後は、カルーセルからダウンタウンの街中を通り、セーラムグランドホテルに戻りま

す。ホストファミリーが迎えに来るまでの時間を、ダウンタウンでボランティアの学生も交えて、各々散策しました。お土産を買ったり、カフェで休んだりして過ごしました。午後5時30分には、ホストファミリーと共にそれぞれの家庭に帰って行きました。

第4日目（8月20日 火曜日）

〈午前：英語研修 東京国際大学ウィラメット分校〉

〈午後：オレゴン州議会議事堂見学〉

〈夜：レセプションパーティー〉

英語研修2日目は、東京国際大学ウィラメット分校で行われました。13人のボランティアの学生が参加してくれました。スーザン先生の説明を受けてから、早速キャンパス散策です。「キャンパスの中で一番新しい建物は？そこで写真を撮りましょう。」「20番の建物は何でしょう？」などの質問に答えていきました。キャンパスはとても広く、たくさんの緑に囲まれています。ボランティアの学生と一緒に写真を撮ったり、英語でコミュニケーションを取ったりと、時間を忘れて楽しく過ごしました。



ランチには、マクドナルドのハンバーガーとポテトをいただきました。メニューは日本と同じですが、味付けが少し違いました。アメリカのハンバーガーの方が、味付けがシンプルで、あっさりしているように感じました。



午後からは、オレゴン州議会議事堂を見学しました。オレゴン州議会の上下両議院の議場だけでなく、州知事や州務長官、州財務官の各事務所が置かれています。アメリカの歴史を描いた壁画やオレゴン州が23番目にアメリカの州になったことを象徴しているエンブレムがあり、美しく幻想的な雰囲気でした。エントラ

ンスからすぐの壁画やエンブレムを見学した後、エバン・ソースさんに、普段は立ち入ることのできない議場内へも案内していただきました。議場のカーペットは、州の木であるモミの木や、オレゴン州にとって大切な生產品の魚や穀物をモチーフとして描かれていました。また、議員が座る椅子、それぞれの議員の名前が書いた机、賛成・反対の意思表示をするためのボタン、議員が仕事で使うための事務所などを紹介していただきました。エバンさんの案内には、地元セーラムの新聞社も同行しており、翌日の新聞には、日本から派遣生が来ていることやエバンさんの紹介で議場を見学している事などが写真とともに掲載されました。地元の方に伊予市からの派遣団を知っていただく良い機会となりました。州議会議事堂への訪問の後は、セーラムの街を散策して歩きました。オレゴン州の特産品を多く扱っている Made in Oregon というお店が派遣生の間で人気で、オレゴン州の特産品やTシャツ



などのお土産を購入しました。



午後6時30分、いよいよ、待ちに待ったレセプションパーティーが始まりました。お世話になっているホストファミリーの皆さんやロータリークラブの方々、セラム市のベネット市長にもご参加いただき、盛大なパーティーが始まりました。岡部団長、エドさん、ベネット市長、ロータリークラブ代表の方の挨拶のあと、料理をいただきました。お寿司、フルーツ、肉料理など、どれをとっても美味しい料理ばかりでした。

ひとときの歓談のあと、兵頭奏南さん（伊予中）と清水愛心さん（港南中）の司会のもと、生徒による出し物が始まりました。最初にAグループの日野晃靖さん（伊予中）、小笠原壮汰さん（伊予中）が日本食に関するクイズをしました。外国発祥のように見えて実は日本が発祥の地であるものや、その逆のものを楽しみクイズ形式で説明してくれました。「ナポリタンは日本発祥である。○か × か」、のような出題形式で、皆を楽しませました。次にBグループの池内太陽さん（伊予中）、笹田明希さん（中山中）は、漢字についてのクイズでした。「『山』この漢字は何と読むでしょう」、このような質問をした後、漢字の成り立ちを絵とともに紹介し、漢字を身近に感じていただく良い機会となりました。続いては、Cグループです。高木優芽さん（港南中）と谷岡沙恵さん（伊予中）は、愛媛の伝統料理について発表しました。伝統料理を知っていただくだけでなく、芋炊きの具材に見立てた紙のボールを箸で運ぶゲームも行い、ホストファミリーの方々に日本の箸文化にも触れていただきました。Dグループの清水愛心さん（港南中）と兵頭奏南さん（伊予中）は、百貨グッズの紹介をしました。紹介したのは、一度開けた袋を熱で溶かして閉じる「ハンディーシーラー」と、様々な野菜をスパイラル状に切る「くるりんカッター」です。とても便利なアイテムが100円で売られていることに、皆驚いていました。次に、Eグループの名合真梨さん（伊予中）と清田李々さん（港南中）は、箱の中に手を入れて、けん玉や紙風船などの日本のおもちゃを当てる「何でしょうクイズ」で、日本文化の紹介をしました。楽しみながら日本のことを知っていただくよい機会となりました。続いて、Fグループの福井凜さん（双海中）と上野由芽さん（港南中）のグループは、私たち派遣団の故郷である伊予市について、たくさんの写真やイラストとともにクイズ形式で紹介し、伊予市のマークや美しい景色などを見ていただきました。そして最後は、Gグループの上田悠華さん（伊予中）と窪中瑞希さん（中山中）の発表です。パーティーに参加してくださった方々と一緒に、折り紙で兜と鶴を折りました。発表者の二人が大きな紙で例を示してくれたので、とても分かりやすく伝わっていました。

その後、全員で「花は咲く」の合唱をしました。東日本復興プロジェクトの復興支援ソングである「花は咲く」をたくさんの方に聞いていただきたいという思いで、一生懸命に歌いました。最後は名合真梨さん（伊予中）と清田李々さん（港南中）によるお礼のスピーチです。ロータリークラブやホストファミリーをはじめ、たくさんの方々にお



世話になっていることのお礼や、自分たちがアメリカの生活から感じたこと、感謝の気持ちなどを一生懸命に伝えました。

生徒全員が、お世話になった方々への感謝の気持ちと、日本のことや伊予市のことをもっと知っていただきたいという思いで、一生懸命に発表した甲斐があり、温かく盛大な拍手をいただいたことは、私たちの財産になりました。また、この派遣がたくさんの方々を支えられており、たくさんの力添えがあるからこそ海外派遣団としてセーラムに来ることができたということに改めて感謝するレセプションパーティーとなりました。

第5日目（8月21日 水曜日）

〈午前：英語研修 ミッションミル〉

〈午後：ウィラメット大学⇒図書館〉



英語研修3日目、研修場所は「ミッションミル (Mission Mill)」です。開拓時代、オレゴントレイルを通過して入植し、水力を使って紡績業を始めた場所を博物館・資料館にしている場所です。まず、前日の課題発表をしました。各々が様々な物語を考え、分かりやすく伝えることができました。次にスーザン

ン先生に配られた写真で、同じ人同士で班を組み、ゲームをしました。各班にアメリカのカードゲームが配られました。基本はビンゴや神経衰弱など日本で馴染みのあるゲームでしたが、最初はルールを理解するだけで大変でした。しかし、遊び方が分かってくると、心からゲームを楽しむことが出来るようになりました。その後、サプライズで登場したラマと記念撮影したり、アヒルに餌やりをしたりしながら州議会に移動し、地下にある食堂でランチを食べました。



午後からは、ジム・サムナーさんにウィラメット大学 (Willamette University) の構内を、案内していただきました。この大学は、1842年に設立され、アメリカ西海岸では最古の歴史を誇る名門私立大学です。煉瓦造りの建物は壮麗で、学舎、劇場、図書館、学生寮、体育施設、ヘルスセンター等々が、緑豊かで広大な土地に散在しています。敷地内には恋愛成就のスタートリー（5本のセコイアの木）をはじめ、大きな樹木がたくさんあり、野生のリスも生息しています。

この日はちょうど大学の入学式で、音楽ホールでは新入生のオリエンテーションが開かれる寸前をお邪魔しました。大学センター内の購買店では、ウィラメット大学名入りの文具や水筒、トレーナーなどを購入し、早速身に着ける生徒もいました。



ウィラメット大学と姉妹関係である東京国際大学との間には留学制度があるそうです。何年か後にまたセーラムに戻って来ることがあるかもしれません。



その後、セーラム図書館を見学しました。小学6年生から中学2年生までのミドルスクールの子どもたちが利用できるスペースを見学しました。読書とビデオ鑑賞ができ、ちょうど映画が上映中でした。マナーを守って過ごさなければならないのは日本と同じでしたが、ジュースとポップコーンがあり、おかわり自由であることにみんな驚いていました。図書館を後にし、その後は1時間ほどダウンタウンを散策して、セーラムグランドホテルに戻り、ホストファミリーと合流して各家庭に帰って行きました。

第6日目（8月22日 木曜日）

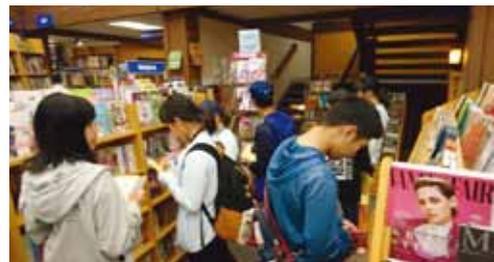
〈午前：英語研修 アートセンター⇒ダウンタウン研修〉

〈午後：セーラムリバーサイドフロント公園⇒サイクリング〉



英語研修も4日目になりました。今日は、街の美術用品を販売しているアートセンターでの研修です。豊富な種類の画材の並ぶ店内を通り抜けたお店の奥が研修場所でした。

まず、お世話になったホストファミリーへお礼の手紙を書きました。お世話になったホストファミリーの顔を思い浮かべ、イラストを描いたり、和紙製の折り紙でデコレーションしたりするなど、それぞれが工夫を凝らし、心を込めて作りました。次に、ペアでダウンタウンの街中を巡り、オーガニック石鹸の店、雑貨屋、本屋、レコードショップなどで、英語で会話しながら買い物もして、自分の英会話の力を試しました。



終了後、セーラムリバーサイドフロント公園の中の、ロータリーパビリオンへ移動し、ランチをとりました。

午後は、同じく公園内にあるチルドレンズ・ミュージアムに行きました。日本では見たことのないようなアスレチック施設があり、室内にも子どもが楽しむことができる玩具や施設が豊富に揃っていました。たくさんの小さな子どもたちに混ざり、アスレチック内のスライダーを何回も滑って遊びました。

この次は、サイクリング体験です。ロータリークラブの方から安全面やバイクの扱い方の

指導を受け、バイクの高さを調整したり、ヘルメットを合わせたりしました。現地ボランティアの学生さんもたくさん来ていたので、総勢 24 台の自転車が 1 列になって、サイクリングコースを進みました。最初に橋を渡り、ウィラメット川を右手に見ながら森の中のコースを通り抜けます。運転中も休憩中もセーラムの自然を体中で感じながら、爽やかな気持ちでスタート地点に戻ってきました。到着後、バイク運搬車へ自転車を積み込むのをお手伝いしました。私たちのためにバイクを用意していただき、ありがとうございました。今日のお迎えは午後 5 時 30 分に公園で、伊予市の中学生とボランティアの学生とで、和気あいあいと過ごしながら、待つことができました。



第 7 日目 (8 月 23 日 金曜日)

〈午前：英語研修 CTEC〉

〈午後：クロックセンター〉



あっという間に時間が過ぎて行き、いよいよ英語研修は最後の日となりました。最後の日は、CTEC での研修です。Career Technical Education Center の略称で、建築、金属加工、調理、農業科学、自動車、映像デザイン、ドローン、美容、ビジネス、マーケティングなどを専門的に学ぶことのできる学校です。ここでは、高校 3 年生になった生徒が、自分の将来のために必要

な技術を身に付けることができます。アメリカでは高校に 4 年間通います。そのうちの 3、4 年を、希望すれば CTEC で学ぶことができるということです。今年度から新しく開設された調理コースでは、普通であれば 2 年の現場経験を積まなければ調理師になることができませんが、CTEC で 2 年間調理を学ぶことで現場経験に代えることができるそうです。また、農業科学のコースでは、野菜の水耕栽培をする機械を見せていただきましたが、水耕栽培は日本が進んでいて、日本の技術を世界の技術者が見ているというお話でした。研修では、CTEC 見学の他に、シルエット作り、ホストファミリーへのお礼の手紙作りをしました。そして、ランチにアメリカンピザをいただき、お腹いっぱい。ここで、英語の研修でずっとお世話になっていた、スーザン・田辺先生、スージー先生ともお別れです。心からのお礼を伝えて、午前中のプログラムを終えました。スーザン先生、スージー先生、5 日間、楽しい授業を準備してくださり、ありがとうございました。



午後からはクロックセンターでの活動です。ここには、遊具付きのプール、競泳用のプール、トレーニン





ジム、ボルダリング、体育館があり、様々な活動を体験することができます。生徒の中には、アメリカの食事で体重が増えたのでは？と心配している人もいました。そんな時にはランニングマシンです。気になる体重増加を食い止めるため、一生懸命に走っている生徒もいました。また、地元の高校生たちとバスケットボールを楽しんでいる生徒もいました。地元の人と1対1をし、相手がダンクシュートを決めればこちらは3ポイントシュートという具合に、全ての言葉が通じるわけではないけれども意気投合し、楽しく過ごしました。プールでは、流れるプールで遊んだり、ウォータースライダーを滑ったりしていました。ライフガードがしっかりと安全を確保

してくれているので、楽しく安全に泳ぐことができました。そして、とうとうボランティアの学生さんたちもお別れの時間となりました。英語研修では、派遣生が英語をしっかりと学べるようにサポートしてくださいました。本当にありがとうございました。



第8日目（8月24日 土曜日）

〈ファミリーと過ごす最後の休日〉

ファミリーと過ごす最後の休日です。

2家族合同でバーベキューしたり、ステイツフェスタに行って遊園地で遊んだり、アウトレットモールでショッピングに行ったりしたそうです。もし、ホストファミリーが日本に来てくれることがあれば、ぜひ色々な場所を案内したいですね。

第9日目（8月25日 日曜日）

〈ファミリーとの別れ、そしてポートランドへ〉



今日はセーラムを離れる日です。8時半頃から生徒がグランドホテルに集合し始めました。本当の家族のように接してくださったホストファミリーとお別れの朝です。感謝の気持ちや寂しさが溢れ、ギュッと長いハグを交わしたり、涙を流したりしながら、別れを惜しまました。またいつかセーラムに戻ってきたいと

いう思いは、きっとみんな同じことでしょう。

伊藤さんご夫妻とホテルの副支配人のミカさんに見送られながら、セーラムを後にし、オレゴン州最大で、住みたい街全米第1位のポートランドに向かいました。晴天に恵まれ、途中で車窓から美しいマウントレーニアを見ることができました。一つ目の目的地はローズガーデン（国際バラ試験農園）です。



1915年に開園したアメリカ最古のバラ農園で、たくさんのバラが咲いていました。ここでは6月に ROSARIA（容姿、知性を兼ね備えた女子学生）を選ぶコンテストが開催されているようです。

二つ目の目的地は、サタデーマーケットと言われる蚤の市です。サタデーと言っても土日にかかっている市場だそうです。衣料品や工芸品、食べ物など、たくさんの種類の出店が並んでおり、みんなたくさんの種類のお土産を買っていました。



ビュッフェスタイルのランチをいただいた後、コロンビア川沿いの高速道路を通過して、バスは100年前に作られた道路を走り、三つ目の目的地 CROWN POINT VISTA HOUSE（クラウン・ポイント・ビスタハウス）の展望台に行きました。名前の通り、王冠の形をした建物です。2階の展望台から、コロンビア川を含む大

自然が一望できました。オレゴンの壮大な景色を楽しみました。

四つ目に、Bonneville Lock & Dam（ボンネビルロック & ダム）へ行きました。1937年ニューディール政策の一つとして作られたダムです。コロンビア川には、3つのダムがあり、氾濫しないようにコントロールしてバランスを取っています。圧倒的な水量に迫力を感じました。ダム内には、鮭の遡上を観察できる fish ladder（魚道）があります。また、近くには養殖場があり、60歳を超える大きなチョウザメを見ることができました。大きな姿に強い生命力を感じました。



最後に、コロンビア渓谷にある全米第2位の高さを誇る、MULTNOMAH FALLS（マルトノマ滝）へ向かいました。落差186mの二段の滝で、たくさんの観光客が訪れていました。マイナスイオンを浴び、気持ちいい時間を過ごしました。

たくさん観光し、オレゴンの自然を堪能した後、ポートランド郊外のホテル、FOUR POINTS BY SHERATON PORTLAND EAST に向かいました。

チェックイン後にホテルのレストランで夕食です。メニューはクラムチャウダーとサーモンのムニエルです。美味しくいただき、全員完食です。食後はそれぞれの部屋に戻り、明日の出国に備えて自分の荷物を整理したり、室内で自由時間を過ごしたりして、午後10時には消灯、就寝しました。



第10日目（8月26日 日曜日）

〈帰国の途へ ポートランド空港⇒成田空港⇒松山空港〉

朝食に合わせて、起床・洗面・身支度を整え、荷物を持ってロビーに集まり始めました。



朝食は、ホテルに併設されているレストランでいただきます。朝食は、自分で選び、英語で注文しました。ハム、ベーコンかうインナーから一つ。卵の焼き方はスクランブルかそれとも目玉焼き？フルーツかハッシュブラウン。飲み物は？たくさんの選択肢の中から、気に入ったものを選びます。英語での生活も 10 日目となれば、臆することなく堂々と意思疎通を図れるようになっており、とても頼もしい派遣生の姿が見られました。

朝食後、ホテルを出発し、ポートランド国際空港に到着しました。無事に搭乗手続きを行ったら、あとは日本に向けて飛び立つばかりです。空港で思い思いに過ごしているとすぐに飛行機の時間はやってきて、名残惜しいですがアメリカともお別れです。飛行機が飛び立ってから、楽しかった思い出をもらった感謝の気持ちで、しばらく窓の外を見つめていました。機内では、行きの飛行機での体験が生かされており、落ち着いて機内食のオーダーをしたり、飲み物を注文したりと、リラックスしていました。約10時間のフライトは、読書や映画鑑賞、ゲームなどで過ごしていました。

第11日目（8月27日 火曜日）

〈帰ってきました！〉

日本時間の午後2時40分、成田空港に着陸。無事帰国です。飛行機を降りた瞬間、懐かしい日本の夏独特の湿気が襲ってくるのを感じました。みんな一様に「暑い」という言葉を出していました。10時間を超えるフライトにも関わらず、みんな元気です。荷物を取り、貸し切りバスで羽田空港へ向かいました。途中で東京ディズニーランドや東京タワー、東京スカイツリーも車窓から見る事ができました。荷物を預け、少し自由時間ができたので、広い施設内を散策しました。その後、午後7時40分、羽田空港を飛び立ち、午後9時20分、松山空港へ着陸しました。

荷物を受け取り、空港ロビーに入ると、家族、先生方、伊予市役所の方々等、多くの方が出迎えに来てくださっていました。解団式では高木優芽さん（港南中）が、今回お世話になった方々への感謝の気持ちと、海外派遣で学んだことをこれからの生活で生かしていく決意を伝えました。

長いようで短く感じた11日間でした。この研修の意義や目的を理解し、伊予市の小さな親善大使として活動した経験は、これからの人生においてかけがえのない宝物になるはずです。そして、再びセーラムを訪れる日が来ることを期待しています。



セーラムでは伊藤さんご夫妻、エドさん、スーザン先生、タナベトオルさんをはじめホストファミリー、ボランティアの学生のみなさん、日本では家族はもちろん、市役所職員、学校の先生、伊予ツーリストの武智さん他、多くの皆様のご尽力してくださりました。この取組が末永く継続され、伊予市とセーラムがいつか

友好都市として結ばれることを深く願い、また、この場をお借りして関わっていただいたすべての皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

③ 派遣生報告

Thank you for salem !

港南中学校 2年 上野 由芽

ずっと憧れていたアメリカに海外派遣へ行くことが決まったとき、私はワクワクした気持ちでいっぱいになりました。そして、初めての海外は期待していた以上に、とても充実したものでした。ホストファミリーと初めて会ったとき、緊張で曖昧な英語になってしまい、あまり会話ができませんでした。けれど、一生懸命自分から話しかけて会話を行うことで、徐々に話している言葉を聞き取るコツがつかめるようになりました。ホストファミリーは、とても明るく親切で優しい方々でした。休日には、ホストファミリーと滝を見に行きました。とても自然豊かな場所でした。そして、日本の川と違ってアメリカの川は幅が広いことにも気づきました。ショッピングモールにも連れて行ってくれました。日本よりブランド品の値段が安かったです。最後の休日には、遊園地にも連れて行ってもらいました。遊園地では今まで見たことのないような遊具に乗り、楽しみました。そこには馬や小動物もたくさんいて、触れ合うこともできました。



家では、バナナブレッドやクッキーをみんなで一緒に作ったり、思い出に絵を描いたりして過ごしました。毎日の英語研修では、地元の高校生たちと協力しながら問題を解いていくことができました。そしてその中で、地元の高校生たちとも仲良くなり、英語力も向上できたと思います。

11日間の間で私が気づいたことは、アメリカの人達はみんなフレンドリーだということです。知らない人やレジの店員さんとも、みんな気さくに話していました。会話の最後には Have a nice day! や、Have a good day! と言っていたことも印象に残りました。寝る前にはハグをしてくれて、アメリカの習慣は素敵だなと感じました。ホストファミリーとお別れする日、研修で作成した手紙を渡すと、泣いて喜んでくれました。私も感謝の気持ちで涙があふれてきました。そしてハグをしてくれました。

今回の海外派遣では、英語の楽しさを改めて感じたと同時に、アメリカの人々の優しさや文化に感動しました。これからもっと英語の勉強を頑張って、いつかまたアメリカに行きたいと思います。ホストファミリーや、この海外派遣に関わってくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



私が今回の海外派遣事業に参加しようと思ったのは、自分の英語力の向上とコミュニケーション能力を高めるためでした。私は小さい頃から英語を習っていたので、今持っている自分の力がどれだけ現地の人に通じるか挑戦したいと思っていました。

セーラムに着いた時、ネイティブの発音は話すスピードが格段に違って、この先大丈夫なのか不安になりました。しかし、ホストファミリーに会い、私が聞き取りやすいようにゆっくり話をしてくれたことと温かい笑顔で迎えてくれたことで、不安だった気持ちはなくなりました。ホストファミリーの一員である犬も私の心強い味方でした。



私の現地での一番の思い出は、ホストファミリーと過ごした休日です。中でも、ビーチで遊んだことは心に残っています。大きな砂山に登ったり、形が変わったカイトを飛ばしました。その後、近くのレストランで“The America”な料理を美味しくいただきました。

この休日を通してホストファミリーと本当の家族になれたようで良かったです。ホストファミリーに感謝の気持ちを込めてお好み焼きを作りました。日本のように材料がそろわず作るのが大変でしたが、大きなサイズのお好み焼きを美味しいと何度も言いながら2枚ずつ食べてくれました。日本の食文化を伝えることが出来たと思います。

毎日の英語研修では、スーザン先生やボランティアの学生さんと楽しく英語を学びました。英語を使ったゲームやスーザン先生からの課題を、ボランティアの方々に手伝ってもらってクリアしていきました。自由時にはボランティアの方々がダウンタウンのかわいいお店や日本にはないようなお店に連れて行ってくれました。ボランティアの方々とも仲良くなれて良かったです。



体験学習では様々な所に行きました。なかでもクロックセンターが一番の思い出です。みんなでプールで泳いだり、クライミングをしたりしました。伊予市にもこのような屋内施設あれば家族で楽しめるなと思いました。みんなと過ごした時間はとても速く感じられました。

今回の海外派遣を通して、英語力とコミュニケーション力は向上したと思います。それに何事にも失敗を恐れず挑戦することの大切さを学びました。このような経験ができたことはホストファミリーや一緒に行った仲間、行かせてくれた家族、関係者の方々のおかげです。セーラムは私のもうひとつのふるさととして、ホストファミリーにまた会いに行きたいです。そしてセーラムと伊予市がもっと良い関係になれるよう、情報発信をしていきたいです。素晴らしい体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



America is very good country !!

港南中学校 2年 高木 優芽

私は、5年前から姉の影響でこの海外派遣に参加したいと思っていました。これまで特別に英語を勉強したわけでもなく、普通に授業を受けていただけの私でも現地で生活できるのか多少の不安もありましたが、「英語力の向上」と「コミュニケーション能力の向上」を目標に伊予市を出発しました。



5時間のバスの後、11時間の飛行機の中から初めて見たアメリカの広大な土地とたくさんの自然がある景色にとっても感動し、11日間の生活にとってもわくわくしました。

私のホストファミリーは、ジョンと大学生のリア、高校生のグレースの3人家族でした。自分たちを家族のように受け入れてくれて、別れるときは本当に辛かったです。スーパーやゴルフなど私が行きたかった所や、アメリカならではの場所にたくさん連れて行ってくださいました。彼らの話すスピードはとても速く、聞き取れないこともありましたが、単語を頑張って聞き取り、「Could you talk a little more slowly?」と言って会話をしていくと、最終日には簡単な会話ができるようになりました。ホームステイの生活で一番楽しかったのは食事の時間でした。朝ごはんは、パンケーキやフレンチトーストなど毎日違うものを出してくれ、食べたシリアルがとても気に入ったので買って帰りました。晩御飯では、ハンバーガーをつくったり、スパゲッティを食べたりしました。お米を出してくれた日があったのですが、ジョンがお米の上に醤油をかけて食べるのがお気に入りと言って食べていたのにはびっくりしました。

一番心に残っているのは、英語研修と体験学習です。毎日、違う場所で違うことをしていたので今日は何をするんだろう?と毎日ワクワクしました。

7日目に行ったクロックセンターでの体験学習では、深さ約20mのプールに飛び込んだり、ボルダリングをしたりとても楽しかったです。英語研修のあとのダウンタウンの自由行動では、ボランティアの高校生に石鹼のお店やショッピングセンターに連れて



行ってもらい、ドルやセントの使い方を覚えました。ボランティアとの高校生ともたくさん話して打ち解けることができ、自分から質問し、最後には連絡先を交換することも出来ました。集合場所に着いてジョンと別れる際には「Have a nice day!」とハイタッチをして送り出してくれたので「Thank you. You too.」と答え、目標にしていた「コミュニケーション能力の向上」を果たせた瞬間がたくさんありました。

今回の海外派遣で、目標にしていたことを果たせたと自信をもって言う事が出来ます。今回出会ったたくさんの人との関係をこれからも続けていき、必ずまた会いに行きたいと思います。また、私たちをサポートしてくださった皆さん、ありがとうございました。

I had the best memories. See you again!!

私がこの海外派遣に参加しようと思った一番の理由は、「自分から積極的に行動できる人になりたいから」でした。しかし出発前までは、この目標をクリアすることはとても難しいことだと思っていました。

ホストファミリーと初めて会った日、私は緊張と不安で、質問に対して、「Yes、No」しか答えられませんでした。緊張しすぎて、「これから 11 日間、出川イングリッシュで終わっちゃうのかなあ」と思ってしまいました。しかし 2 日目からはちゃんと文章で話せるようになり、最終日には緊張もなくなり、慣れた感じで話せるようになりました。

ホストファミリーとの一番の思い出は、みんなで遊園地に行ったことです。遊園地の中でも、私がアトラクションの中で一番苦手なジェットコースターに 2 乗ったことが一番の思い出です。「私はこの遊具が苦手です」と言おうとしても、うまく伝わらず乗ることになりました。乗る前に、9 歳の Viana に「Smile!」と言われて、頑張っって少し引きつった顔だったけれど笑顔で乗りました。最後に約 70 m の高さから真下に落下し、大きな水しぶきが上がってすごく怖くて悲鳴を上げながら落ちていったことを覚えています。怖すぎて「もう乗りたくないな」と思ってしまいましたが、とてもいい思い出になりました。



また、セーラムに行って一番驚いたことは、セーラム 1 周年記念フェアの規模の大きさです。ハンバーガーやチキンなどの屋台はもちろん、観覧車や空中ブランコなどのアトラクション、豚や馬などの可愛い動物、石鹸やアクセサリを売っているお店など、日本では考えられないくらい大きさでした。このフェアの中でも一番楽しかったのは、ロープウェイに乗って、いつもと違う角度からきれいな夜景を見たことです。きれいすぎて乗っている時間があっという間でしたが、最高の記念になりました。



セーラムで過ごした 8 日間は、一言では表せないほどの貴重な体験ばかりで、本当にあっという間でした。最初の目標だった、「自分から積極的に行動できる人になりたい」という目標は、この 11 日間の中でたくさんの人に自分から話しかけたり、英語で話したりしているうちに達成できたんじゃないかなと思います。出発する前まで、「達成できない」と思っていた私でしたが、成長して日本に帰って来られたんだなあと思います。まだまだ未熟な私に成長できる機会を与えてくださった

全てのの方々に感謝し、自分の成長した姿を周りの人にも見てもらえるよう、これからもいろいろなことにチャレンジしていきたいです。弱い自分が少しでもなくなるように、何事にも一生懸命頑張っていきたいです。そして、将来今よりもっと成長した姿を絶対にホストファミリーに見せられるよう、英語の勉強も今まで以上に頑張りたいです。

Chris, Kari and Viana 待っていてください！ 本当にありがとうございました。

私には、英語関係の仕事をするという夢があります。その夢に一步でも近づきたいという思いで今回の海外派遣を希望しました。セーラム市へ行けることが決まったときは自分が英語を一生懸命勉強してきた良かったなと思いました。しかし、ネイティブの英語を学習できる喜びと同時に、自分の英語は通じるのかという不安もありました。そんな思いを胸にセーラム市へ出発しました。

セーラム市に着いてホストファミリーと会いました。ホストファミリーの方は気さくでとても優しく、私の英語も必死に理解しようとしてくれました。おかげで不安だった私もすぐにホストファミリーの方と打ち解けることができました。初めてホストファミリーと終日過ごした日は、おとぎ話がテーマの森の中の遊園地へ連れて行ってくれました。特にジェットコースターが楽しかったです。

3日目から5日間あった英語研修では、セーラム市の見学やサイクリング、ダウンタウンの視察、クロックセンターなどでスーザン先生や高校生のボランティアの方たちと一緒に体験学習をしました。私は、高校生のボランティアの方に積極的に話しかけ、すぐに仲良くなることができました。また高校生のボランティアの方から、「あなたと一緒に活動してもいいですか」声をかけてくれることもあり、嬉しかったです。

セーラム市滞在最終日は、午前中にホストファミリーの方とオレゴン州フェアに行きました。たくさんの屋台とアトラクションがありました。壮大なフェアで楽しかったです。午後からはホストファザーのクリスさんと娘さんのカリアさんのカーレースを見に行きました。初めて見るカーレースは迫力があり、歓声が響き渡っていました。初めての私でもまた見たいと思うほど面白かったです。

ホストファミリーの方とお別れする時は、とても寂しい気持ちになりました。「またきてね」と言われました。私も絶対に英語をもっと上達させ、再びセーラム市へ行きたいと思いました。

皆様には伝えきれないほどの感謝でいっぱいです。今しかできない最高の体験をありがとうございました。



「アメリカに行くこと」それは私の夢でした。この事業に参加することが決まったから日が近づくにつれて私のワクワクはどんどん大きくなっていき、アメリカに着いた時の感動は今でも忘れられません。

ホストファミリーのレスリーとデリックとマシューはとても優しく素敵な家族で、犬のフーギーとナーリーは、とても可愛かったです。ホストファミリーと過ごす休日には、海へ連れて行ってもらいました。海では知らない人に気軽に話しかけていて、驚きとアメリカらしさを感じました。また、買い物をしたときにレジの人が、“Have a nice day!” と言ってくれて本当にフレンドリーだなと思いました。食事は、やはりアメリカサイズで、ピザやハンバーガーやスターバックスの飲み物までも大きかったです。また、タコスやソーセージなどの様々な国のものを食べさせてもらい、とってもおいしかったです。

英語研修では、スーザン先生や高校生ボランティアの方と一緒にたくさんの場所を見学し、楽しく充実した時間を過ごしました。英語を教えてもらったり、日本語を教えたりして楽しい会話がたくさんできました。そして、連絡先を交換することが出来たのでこれからも交流を続けたいです。

今回の研修で一番心に残っているのは、現地の方々のやさしさを感じたことです。お店に入るときにはドアを開けてくれたり、道でボランティア活動をしている学生がいた時には沢山の人が当たり前のように募金をしていたりしてアメリカ人のやさしさに感動しました。そして、私もこういう優しさを忘れないようにしようと思いました。

私は、今回の研修で英語が大好きになりました。もっと勉強してペラペラ話せるようになりたいです。また、ホストファミリーに「また帰っておいで」と言ってもらえたので、必ずもう一度行きたいです。今回の研修でとても充実した 11 日間を過ごすことが出来ました。お世話になった沢山のの方々、本当にありがとうございました。



僕は洋楽が好きで海外の文化や音楽に興味があり、この派遣事業に参加しようと思いました。アメリカに行けると決まり、ネイティブの発音や異文化を体感できる楽しみの反面、自分の英語が現地の人に通じるのか、ホストファミリーに迷惑をかけないか、他の派遣生と仲良くできるか不安な気持ちでした。しかし、派遣メンバーは個性的で面白く、現地の方々はフレンドリーで優しく、すぐに緊張がほぐれました。

現地でホストファミリーのダンとウィリアムに会うと、まずピザを食べに連れて行ってもらいました。サイズの大きさに驚き、分厚くて具がいっぱいのっていてとても美味しかったです。

ホストファミリーと過ごす日には「海のように大きな湖に行くよ」と言われ車に乗りました。着いてまず目にしたのは、どこまでもクリスマスツリーが植えられている草原でした。そこには別荘とプライベートボートがあり、「クリスマスツリーを3万



5千本植えていて別荘と家が二つあるよ」と教えてくれました。僕はポカーンと口を開けたまま景色を眺めていました。アメリカの様々な大きさに驚く日々でした。湖は本当に海のような感じでした。プライベートボートに乗って釣った魚を料理してもらいました。ダンの料理は全て美味しかったです。ホストファミリーには貴重な体験をたくさんさせて頂きました。毎夜一緒にトランプをしながら会話する時間



も楽しい一時でした。特に僕が好きだったのは、愛犬ワイリーとの散歩道で見る夕日です。通る人と交わす挨拶も映画のワンシーンのようでした。

平日の午前には英語研修があり、自分の英語力がどこまで通用するか試すため、現地の高校生と積極的に話し、もっと英語を勉強しようという活力になりました。

スーザン先生の授業は体験型でアメリカの良いところや日常会話について学ぶことが出来ました。午後はセーラムののどかで美しい街並みを見て回りました。自然の美しさ、楽しさ、優しさに触れ、もっと居たい、帰りたくないと思いました。



ホストファミリーと別れるとき「いつでもおいで」と言ってくれたので、成長して絶対会いに行こうと思いました。人見知りを解消すること、積極的になること。これらは行く前に目標としていた事です。この派遣を通して、「そうしないともったいないよ。自由に生きよう」とアメリカが教えてくれました。この素晴らしい経験をさせてくれた、両親、派遣事業の関係者の方々に深く感謝しています。この経験をみんなにしっかり伝えていこうと思います。

空港へ向かうバスの中、これからアメリカへ行くという実感はあまりありませんでした。しかし、飛行機に乗り、外国人の添乗員さんに“Would you like something to drink?”と聞かれ、生きた英語に頭が真っ白になりました。そしてこれから海外の方々と英語で会話をしながら生活していくんだと実感が湧き、どんな毎日になるのかワクワクすると同時に、言語も文化も違うアメリカで生活していけるのかという不安でいっぱいになりました。

アメリカに到着し、ホストファミリーとの初対面。不安で仕方なかった私をホストファミリーは温かく迎え入れてくれました。しかし、話す言葉は全て英語。そしてとにかく速い。何と言っているのか分からないことが多く、なにか答えなきゃと必死でした。2日目にはビーチに連れて行ってもらい、見たことのない広さのビーチに驚くとともに、楽しく遊んだりご飯を食べたりする中で、ホストファミリーとの会話も少しずつ続くようになりました。また、知らない人にでも気さくに話しかけるアメリカの人々のフレンドリーさを、身をもって感じました。



楽しい時間はあっという間に過ぎ、2軒目のホストファミリーの家に向かいました。今までは派遣生4人でしたが、この日から2人きりになるのもっと積極的に話しかけようと決めました。もちろん、まだ分からない英語もあるので「もっと食べる？」と聞かれていたのに勘違いして、お腹いっぱいなのに“Yes!”と言ってしまったり「一緒に行こう」と言われていたのに勘違いして出かける準備をしていなかったりと失敗の連続でした。しかし最初のころは失敗を恐れてあまり話せなかった私も、このころからは失敗を恐れず話すことができるようになり、会話がさらに弾んで、みんなで大笑いするまでになりました。

スーザン先生による英語研修も本当に楽しいものでした。ボランティアの人との会話も弾み、日本語を教えたり、一緒に熱唱したり、簡単なゲームをしたり…。たくさんの思い出を作りながら英語を学ぶことができ、とても充実した時間でした。



アメリカでの生活は慣れないことが多くて失敗ばかりだったけど、そのことも含め、すべて私にとって忘れられない最高の思い出です。自分の話す英語が伝わる喜びを感じ、気付けば英語を話すことが楽しみになっていました。「失敗を恐れて自分自身が何もしなければ何も始まらない」そのことに気づけたのは何も分からなかった私に、優しく明るく接してくれたホストファミリー、現地の方々、この事業の関係者の方々など支えてくださった方々のおかげです。ホストファミリーに「いつでも帰っておいで」そう言われたとき、「もっと英語を勉強していつかまた会いに来よう」と決めました。この気持ちを忘れず努力したいと思います。本当にありがとうございました。

私は海外に興味をもっており、日本の外の世界を見てみたいと思っていました。また、英語が好きということもあり、今回の海外派遣への参加を希望しました。セーラムへ行けることが決まった時は、とても嬉しく本当に出発の日が待ち遠しかったです。でも、だんだんとその日が近づいてくるにつれ、本当に今の英語力で生活していけるのかと不安に思うようになりました。

しかし、そんな心配はならず、ホストファミリーや現地の方々を温かく迎え入れてくれました。最初はとても緊張してしまい、なかなか自分から話しかけることができなかったのですが、だんだん緊張もなくなっていき、自分から話しかけられるようになりました。ホストファミリーとの生活は新しいことがたくさんで、アメリカならではの生活を体験することができ、良い体験になりました。



また、ホストファミリーは、様々な所へ連れて行ってくれたり、アメリカならではの食べ物を食べさせてくれたりしました。アメリカの食べ物も建物などと同じようにどれもビッグサイズでおいしかったです。ホストファミリーは、庭にあるバーベキューグリルでチーズバーガーを作ってくれました。家で作るチーズバーガーは、初めてだったけど、チーズがとけてとても美味しかったです。私の中で一番のお気に入りの食べ物になりました。



英語研修では、セーラムの街へ出て様々な店へ行ったり、自分で買い物をしたりする中で英語を学びました。ボランティアの方達と会話をしながら、セーラムの街並みを楽しむことができ、現地の方達とも触れ合えることができました。特に、ボランティアの方達とは、すぐに打ち解けることができ、たくさん話をしました。私の言いたいことを一生懸命に理解しようとしてくれて、本当に良い方ばかりだと思いました。

アメリカでの生活はあっという間でしたが、たくさんのことを学び、知ることができました。「積極性を身につける」という目標も少しは達成できたと思います。また、「伝えようとする気持ち」があれば、どんな形であっても伝わるんだなと実感しました。これからも、もっと英語を勉強して、今回の海外派遣で学んだことを、今後の生活にも生かしていきたいです。そして、またセーラムを訪れたいです。

最後に、この素晴らしい経験をさせて下さった全ての方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

僕は、母に英語を小さい頃から教わっていたので外国にとっても興味がありました。だから海外派遣の募集があった時、絶対に行きたいと思いました。自分の英語がどのくらい通じるのか、アメリカの気候はどうなんだろう、どんなお国柄なんだろう、そう思うだけでうずうずしてくるのを感じました。そしてアメリカに行くと、そこはまるで別世界で驚きました。アメリカの方々は、とても親切でした。自分のホストファミリーやボランティアの高校生などと色々な人と接してきましたが、皆優しくかったです。足りてない僕の英語を理解しようとしてくれ、僕にとって単語が難しく分からないときには、身振り手振りを交えて伝えようとしてくれました。アメリカは人が優しく、いい国だなと感じました。



英語研修では、色々な場所に行きました。カルーセル、警察署、消防署など様々です。特に心に残ったのは、ウィラメット大学です。そこには、敷地内に川や、噴水に似たものなどがありました。大学を見学しているうちに、ウィラメット大学に行きたい!! という気持ちが次第に強くなっていき、今では絶対ウィラメット大学に行くんだ!! という気持ちになりました。

ました。

休日の一日目はホストファミリーが計画してくれていて、「銀の滝」に行きました。滝まで行って帰ってくるまで、約 10 キロも歩きました。疲れたけど、道中楽しく話しながらだったので、いい思い出ができました。

最終日には、ホストファーザーとショッピングモールに行きました。またバーベキューでは、ホストマザーのお母さんやホストファーザーのお姉さんも来て、盛大に行われました。その時食べたチキンの味は今でも忘れられません。



今回の海外派遣を通して、日本の良さに改めて気づき、またアメリカの良さにも気づき、将来アメリカに住みたい! という気持ちが強まりました。

感謝

伊予中学校 2年 日野 晃靖

僕は、テレビなどでアメリカのニュースを見るたびにアメリカってどんなところだろうという疑問とともに、アメリカに行ってみたいと言う気持ちが強くなり、参加を希望しました。また、僕はいろいろな人に支えていただき充実した11日間を送ることが出来ました。

ホストファミリーと最初に会った時は全然積極的に話せなかったけど、日がたつに連れてどんどん積極的に話すことができました。また、ワイリーは精神的なこともほぐしてくれました。

まず、ホストファミリーや現地の方々に会って驚いたのは、アメリカ人はとてもフレンドリーだということです。日本では挨拶しても返してくれないことがあるけれど、アメリカの方々はその真逆でした。

ホストファミリーとは、釣りに行ったり買い物にいたり、とても大きなピザを食べたりゲームをしたりなどと沢山のことをしました。アメリカのショッピングセンターやごはんは、やはり日本とは比べ物にならない量と大きさでした。ご飯はとても多かったけれど、たくさんの味付けがあったから全く飽きませんでした。

英語研修では、スーザン先生やボランティアの高校生、大学生の方々と共に本場の英語を学ぶことができました。ボランティアの方々は、僕たちにとっても親切に教えてくださいました。また、クロックセンターでは、ボランティアの方々とバスケットをしたりして最後はとても仲良くなれました。クロックセンターでは、たくさんの人と仲良くなれました。

今回の研修で一番大事なのは積極性だと思いました。なぜなら、言わないことには何も始まらないし、相手も何を考えているのかもわからないからです。だから、少しずつでもしゃべることが大切だと実感しました。また、学校で習う英語と全然違ったのでとても勉強になりました。日本を離れるという不安もあったけれど現地の方に支えていただき不安を吹き飛ばすことができました。僕は、またアメリカに行きたいという気持ちが強くなりました。それとともに、関係者の方々や家族に対し感謝を忘れず、今後の生活に活かしたいです。関係者の方々本当にありがとうございました。





セーラムに行くことが決まった時、僕は喜びと希望で胸がいっぱいでした。でも少し不安な気持ちもありました。本当に英語で話せるのか、ホストファミリーとうまく生活できるのか。しかし、そんな気持ちは迎えに来てくれたホストファミリーの笑顔を見るとすぐなくなりました。ホストファミリーとの最初の休日はオレゴン州最大の州立公園であるシルバーフォ

ールに行きました。大きな滝や美しい自然を堪能しながら最高の一日を過ごすことができました。

英語研修では、大学やセーラムの町を散策しました。英語だけの世界に最初は戸惑うこともありましたが、自分の英語を使って楽しく研修を受けることができました。また、高校生ボランティアの人達ともたくさん会話をしました。言いたいことが英語で伝わったときはとても嬉しかったです。研修を通じて自分の英語はもちろん自分自身にも自信がついたと思います。

体験学習では、消防署、警察署、ウィラメット大学、セーラム市議会、クロックセンターなどに行きました。消防署では放水体験、市議会では市長の椅子に座らせていただきました。その中でも特に思い出に残っているのは、クロックセンターです。高校生ボランティアや現地の子も達といっしょにたくさん遊んで交流を深めることができました。



ホストファミリーとの最後の休日は、買い物に連れて行ってもらいたくさんお土産を買うことができました。夕食には大きなサーモンをみんなでおいしく食べました。最後にみんなで写真を撮りました。素晴らしい時間を過ごすことができました。お別れの日、ホストファミリーに「いつでも帰ってきて」と言われ最後にハグをしてもらいました。必ず会いに行きたいと思います。

この海外派遣を通じて多くのことを学び、たくさんの思い出を作ることができました。英語がもっともっと好きになりました。これからも、たくさん英語を勉強してまたホストファミリーや高校生ボランティアの人達に会いに行きたいと思います。



最後にこの海外派遣事業のために僕を支えてくださった家族をはじめすべての方々に感謝します。本当にありがとうございました。これからも派遣事業で学んだことを活かして頑張っていきたいと思います。

ずっと憧れていた海外派遣事業に参加できることになり、嬉しさと期待でいっぱいでした。同時に、初めて会う違う学校の派遣生、初めての海外など、初めてのことばかりで緊張や不安もありましたが、ホストファミリーと出発前からメールのやり取りをするうちに気持ちも和らぎ、会える日が待ち遠しくなりました。空港に着いた時には、とうとうアメリカに来たんだと感動しました。

ホストファミリーと過ごす最初の休日に、オレゴンコーストに連れて行ってもらいました。ここで驚いたのは海なのに誰も泳いでいなかったことです。釣りをしたり砂でお城を作ったりしていました。アザラシが日なたで寝ているところや近くでクジラを見ることができました。他にも有名なキャンディーの店などにも連れて行ってもらいました。見るもの全てが新鮮で楽しさのあまり緊張はすぐにほぐれました。



英語研修では、スーザン先生のもとボランティアの方々と一緒にプリント学習をしました。プリントに書かれた場所に行き、写真を撮ったり問題を解いたりしました。ボランティアの方々が気さくに話しかけてくれたので、自分の気持ちを自分なりに英語で表して伝えることができました。何回も会話が続いた時は、とても嬉しかったです。ボランティアの方は、日本に行ったことがある方も多く日本語が上手で驚きました。

アメリカの施設見学をして興味深かったのは CTEC です。農業や建設、ドローン技術などたくさんの種類の専門教室がありました。見学しているだけでとてもおもしろかったです。特に経営や経済を勉強する教室に興味があり学んでみたいと思いました。その他にも警察署や消防署、クロックセンターなど、日本とは全く違う造りの施設を見学することができ勉強になりました。アメリカでの11日間はとても楽しく充実した日々でした。

アメリカに行って日本ではできないことをたくさん経験して、成長して帰って来ることができたと思います。一緒に参加したメンバーとも仲良くなり、ホストファミリーとは今でも英語でメールのやり取りをしています。この海外派遣事業に参加できたことに感謝をし、たくさんの貴重な体験をこれからの進路や生活に活かせるように頑張りたいと思います。



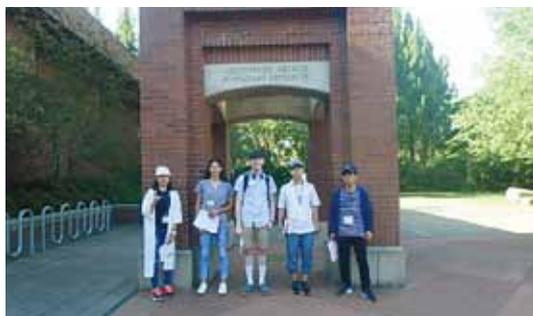
私はこの事業に参加するとき、すごく迷いました。双海中学校から一人だけの参加、初めての海外。不安でいっぱいでした。アメリカに着くとすべてが英語で、迷うことやわからないことがたくさんありました。自分の想像以上に外国人の英語は早口で聞き取るのが難しかったです。それでも自分から積極的に話しかけて、うまく伝わらなくても、最後には一緒に笑って終わることができたので、達成感がありました。最初は単語だけで会話していましたが、だんだん文章で話せるようになり、自分の成長を



感じることができました。英語だけでなく、食事や生活様式、アメリカでの常識など、多くのことを学びました。一番感じたことは人のフレンドリーさです。知らない人でも声をかけてくださったり、買い物をしてお金を払うときに「Have a nice day!」と笑顔で言ってくださったり、サングラスをかけていたら「So cool!」と言ってくださったり、どんなときでも

笑顔が絶えませんでした。とても充実した 11 日間を送ることができ、あっという間にお別れの日を迎えてしまいました。ホストファミリーに感謝の気持ちをしっかりと伝え、お別れをしました。

また、多くの方々へ感謝も伝えたいです。私たちのホームステイを快く受け入れてくださったホストファミリー、お見送りやお出迎えをくださった家族や学校の先生方、11 日間協力して過ごしたメンバーのみんな、この事業を計画してくださった伊予市役所の方々など、多



くの人の支えがあってこの事業は成功したと思います。感謝の気持ちを忘れずに今後の生活に繋げていきたいです。これをスタートラインとして、外国のことをもっと広く深く知り、英語の勉強に力を入れたいと思います。今回つながった人との親交も続けたいと思います。この事業で学んだことを無駄にしないようにしたいです。そして将来この事業に関わった多くの人、特にホストファミリーに恩返しができるよう、自分の英語力を向上させたいです。

3 事業実施に関する諸会合



《 出発式（伊予市役所） 》

1 第1回伊予市・セーラム国際交流委員会役員会

日 時：令和元年5月22日（水）14：00～

場 所：市役所 4階 大会議室

- (1) 開会あいさつ 伊予市・セーラム国際交流委員会 会長 武内 英治
- (2) 報告事項
平成30年度伊予市国際交流事業について
令和元年度伊予市・セーラム国際交流委員会 役員・事務局体制について
伊予市中學生海外派遣事業旅行業務プロポーザル審査結果について
- (3) 協議事項
令和元年度伊予市中學生海外派遣事業の実施について
- (4) その他

2 第1回伊予市・セーラム国際交流委員会中學生海外派遣事業部会

日 時：令和元年5月22日（水）15：00～

場 所：市役所 4階 大会議室

- (1) 開会あいさつ 伊予市・セーラム国際交流委員会中學生海外派遣事業部会 会長 西岡 義雄
- (2) 報告事項
平成30年度伊予市中學生海外派遣事業について
令和元年度伊予市・セーラム国際交流委員会事業部会 役員・事務局体制について
- (3) 説明・協議事項
令和元年度伊予市中學生海外派遣事業の実施について
派遣生及び引率指導者の決定方法について
伊予市中學生海外派遣事業の今後のスケジュールについて

3 事務担当者打合せ会

日 時：令和元年7月3日（水）16：30～

場 所：市役所 3階 会議室2

- (1) 実施要項の確認について
- (2) 海外派遣生・団長・引率指導者等の確認について
- (3) 研修プログラムの確認について
- (4) 事前研修等の確認について

4 事業説明会

日 時：令和元年7月16日（火）18：30～

場 所：市役所 4階 大会議室

- (1) 開会
- (2) 主催者あいさつ 伊予市・セーラム国際交流委員会 会長 武内 英治
- (3) 関係者自己紹介
- (4) 事業説明
- (5) 研修内容及び手続きについて
- (6) 質疑応答
- (7) 閉会

5 伊予市中学生海外派遣事業 第1回研修会

日 時：令和元年8月7日（水）14：00～

場 所：市役所 4階 大会議室

- (1) 開会あいさつ 伊予市中学生海外派遣事業セーラム派遣団 団長 岡部 悦雄
- (2) 派遣生自己紹介
- (3) 研修会
平成30年度伊予市中学生海外派遣事業実施報告について
海外渡航に関する諸手続等について
事務局からの事務連絡について
質疑応答
- (4) 閉会

6 結団式

日 時：令和元年8月14日（水）13：30～

場 所：市役所 4階 大会議室

- (1) 開会
- (2) 主催者あいさつ 伊予市・セーラム国際交流委員会 会長 武内 英治
- (3) 激励のことば
伊予市長 武智 邦典
伊予市議会議長 田中 裕昭
- (4) 団長あいさつ
伊予市中学生海外派遣事業セーラム派遣団 団長 岡部 悦雄
- (5) 海外派遣生による自己紹介及び決意発表
- (6) 閉会

7 伊予市中学生海外派遣事業 第2回研修会

日 時：令和元年8月14日（水）14：00～

場 所：市役所 4階 大会議室

- (1) 開会
- (2) 研修会
「広報いよし」原稿提出のお願い
海外渡航における留意点
事務連絡
質疑応答
英会話研修

8 出発式

日 時：令和元年8月17日（土）7：30～

場 所：市役所 1階 ロビー

- (1) 開会
- (2) 主催者あいさつ 伊予市・セーラム国際交流委員会 会長 武内 英治
- (3) 団長あいさつ 伊予市中学生海外派遣事業セーラム派遣団 団長 岡部 悦雄
- (4) 派遣生代表あいさつ 伊予中学校 3年 谷岡 沙恵
- (5) 随行者・事務局紹介
- (6) 事務局長あいさつ 伊予市・セーラム国際交流委員会 事務局長 高橋 久美子
- (7) 諸連絡
- (8) 閉会

9 伊予市中学生海外派遣事業セーラム派遣団報告会

日 時：令和元年10月31日（木）16：30～

場 所：市役所 4階 大会議室

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 来賓あいさつ
- (4) 事業の実施状況報告（団長・引率指導者）
- (5) 海外派遣の感想発表（派遣生）
- (6) 質疑応答・意見交換
- (7) 閉会



《 解団式（松山空港） 》